

石巻復興 NEWS

石巻専修大学経営学部 丸岡ゼミ 平成26年11月30日発行 第35号

福岡県西方沖地震後の玄界島の産業復興

去る11月7日（金）、石巻専修大学において「まちづくり懇話会／福岡県西方沖地震後の玄界島の産業復興」が開催されました。2005年に地震に見舞われ、約3年間で復興を遂げた福岡市玄界島について学ぶ集いで、同大学地域活性化研究会の主催です。

2005年の震度7～8の地震で島から犠牲者は出なかったものの、島の斜面のほとんどの家と階段が壊れ、町並みの全面的な作り直しを必要としました。島の団結力が強く、全面的な町の造成に早く合意できたことが、比較的早い復興につながったとされています。復興後の島には岸壁そばから斜面に上られるエレベータ付きのアパートやゆるいスロープで行き来できる住宅街があり、高齢者向けの配慮がなされています。

登壇した宮川友芳さんは高校生のとき被災した、若い漁師さん（28歳）です。漁業の傍ら観光客の受け入れイベントを積極的に行い、観光用のパンフレットやホームページ作成に力を入れています。この日のために玄界島から石巻に足を運んでくださいました。

講演の概要を要約すると次のようになります。

＊

1 災害前の玄界島

観光の可能性災害前の玄界島には石垣が多く、家と家の間隔が一人分しか通れないほど狭いものでした。

人口は500人を切っていて保育園と小中学校があります。主産業は漁業で、漁師の数は90人程ですが、65歳以上の方約160人という高齢化した島です。

2 震災について

2005年3月20日10時53分福岡県西方沖、玄界島から約8キロメートルの地点で地震が発生しました。

石垣が崩れたり、家が全壊したりした所が多数でした。

人的被害は、死者0人 重傷者10人 軽傷者9人。

家屋被害は、全壊107棟、半壊45棟。

支援物資とボランティアが嬉しかったです。



玄界島イベント＝宮川氏提供写真

4月中旬、仮設住宅が玄界島と都市部に100棟ずつできました。漁師の人もいるため、〔被災家族の〕父は玄界島、母や子供は都市部に移動をしました。島に子供がいない

ため、活気はありませんでした。

3 復興・防災

復興については、復興対策検討委員会の13名を島民投票で決めました。その人たちが中心で復興を進めました。島

民総会を何度も開き、一体的整備のために解体工事を進めました。第一回の島民総会で全部の家を壊そうと決まり、復興への取り掛かりが早まりました。

復興委員の13名だけだったら意見が偏る可能性があるのも、もっと幅広く島民の意見を取り入れるために復興協議委員会を設立しました。各種団体の様々な視点から意見が出て、またさらに加速していきました。

新しい島ですが、震災後避難場所として公園の数がかなり増えました。震災前の2、3が5、6になりました。道路が整備され、小中学校がひとつになりました。

三年で復興できた要因は、僕は二つあると思っています。ひとつはコミュニティの強さともうひとつは死者が0だったことです。

玄界島には3つの防災組織があります。それは、水上消防分団、女性自衛消防団、少年少女防火クラブで、水上消防分団は、島の漁師たちで結成された地元の消防団で海難事故や火事のときに出動します。この団の下部組織に青年団が存在します。漁師は全員消防団や青年団に入るのが原則になっています。女性自衛消防団は男性陣が漁に出て誰もいない時に火事が発生しても消火活動が出来るように訓練をしています。少年少女防火クラブは中学生によって結成された団です。人工呼吸や心臓マッサージの仕方、災害発生時の対応について訓練をしており、実際の災害発生時にガス栓を閉めて回り火事を防ぎました。小学生も防災アナウンスをしています。

このように玄界島は小さい時から防災の意識を高め、年を重ねるに連れてクラブや団に入っていくことが出来る仕組みです。

4 「島づくり推進協議会」の発足と観光

玄界島では島を楽しんでもらおうと、区役所と協力し、〔福岡〕市内から150人の人たちに来てもらい、楽しんでもらうというイベントを行っています。

まず島に着くとセレモニーとして小学生が太鼓でお出迎えをし、玄界島の説明をしてくれます。イベントでは食事が提供され島の魚や野菜を市内の人に食べてもらい喜んでもらいます。

島では漁船で近くの無人島へのクルージング、島の散策、海水浴や釣りなどといった、自然を満喫できるイベントがさまざまです。

このイベントは初代の「島づくり」から受け継がれてきましたが、ほとんどがボランティアで行われていました。生活を取るかボランティアをするかで生活をとる方が多く、島づくり委員になりたい方は少数でした。

僕は、その状況に危機感を感じ、三代目会長になりました。会長になると組織を変えるため島民に呼びかけをし、やる気のある人だけを集めました。また今までの島づくり委員は島に住む人たちで構成されていましたが



玄界島イベント＝宮川氏提供写真

これをなくし、市内に住む島出身者の人たちも参加できるように改善しました。

島で行うイベントには 150 人もの人たちが参加するため、小学校や中学校とも連携し人数が少ないながらもなんとか開催することができました。

僕が委員長を務め小さな組織が島の活性化を進めていくなかで組織としての一体感や意欲のある行動などが島の復興のときに比べ低いと感じ、二年たらずで島づくり委員は解散してしまいました。

僕はこの島づくり委員会の活動を行っていくなかで、若手の人と年配者の人との価値観の違いを知り、またいろいろな人の意見を聞くことで島にはまだまだ可能性があると感じました。

＊

復興に団結が必要なところ、多数の方の意見調整が必要なところは、石巻の参考にもなると思います。

(阪口卓也、大瀧裕也、三國翼、高橋賢臣、涌井翔太)

○会場でのアンケート記述から

「宮川さんが「やりたいと思う」ことを実行されていることが、まさに東北にでも求められていることだと思いました。」(女性・NPO 法人)

「素早い復興がどのようにして成されたのかを知ることができとても参考になりました。…」(男性・大学生)

「3 年というすごい早い期間で復興をしていて、島の人達の島に対する強い意識を感じた。」(男性・大学生)

「島づくり活動」に本当に人生をかけて取り組んでおられる宮川さんの取組はとても勉強になりました。さまざまな角度から各地で先頭に立って復興→地域活性化に取り組んでおられる方々との意見交換はとても有意義と思います。…」(男性・行政)

「若い人が中心になって島の発展に力を入れていることはとても良いことだと思った。自分も玄海島に行ってみたくなった。」(男性・大学生)

「漁業集落のあり方(世代間の考え方の違い、若者参加の難しさ etc) が東北の被災地と同じ。観光振興でがんばってほしい」(男性・団体)

ばしふいっくびいなす寄港！！

去る 10 月 31 日、全長 183.4 メートル、26,594 トンの大型客船「ばしふいっくびいなす」が石巻の大手埠頭に着きました。今年で 3 年連続寄港です。



良い天気の中、私たちは大漁旗を持って客船をお出迎えしました。岸壁では歓迎式典での石巻市長や東松島市長のあいさつ、奥州・仙台おもてなし集団「伊達武将隊」の演舞、「いしびよん」などのゆるキャラの記念撮影などが行われ、会場は盛り上がりしました。

会場の観光 PR ブースでは地域の水産物販売、ホタテの無料提供、石巻専修大学ブースでの石巻焼きそばの無料提供(庄子ゼミ)が行われました。

ば号：豪華な船内

ばしふいっくびいなすは豪華客船です。

私たちはこのたび、船内を見学する機会に恵まれました。この船は総重量



26,561 トン、12 階までのうち 1 階から 3 階は客室、4 階は美容室、5 階はフロント、6 階はシアター・囲碁ルーム、7 階はオープンバー、8 階は多目的ホール、9 階は茶室・カラオケルーム、10 階はスポーツデッキです。ここでバスケット観測・天気の良い時はバイキングなどができます。

11 階はジム・プール・ジャグジー、12 階は賭けなしのカジノがありました。本格的なシアタールームやスポーツデッキがあります。

船には、自走能力を持つ避難用の救助ボートもあります。そのボートの中には食料や飲料水を積んでいます。廊下が広く、解放感があります。

今回、私たちは船内を見学でき、とても良い経験ができました。私も一度はこの様な客船に乗ってみたいと思いました。

(鈴木成仁、三國翼)

ば号歓迎：販売に大切な色合い

ばしふいっくびいなす歓迎時、岸壁には特設のテントが並びました。

私たちのテントでは、雄勝硯生産販売協同組合、みなとまちセラミカ工房、名振マザーミサンガ、ばっばコーポレーションが手工芸品の販売を行いました。

私はブースで雄勝硯の石を使った皿の販売の手伝いを行い、パンフレットを配りました。

皿の上に飾りを置けば硯石でつくられた黒い皿ももっといいものに見えるかと教わりました。私も、色合いというものは販売にはとても大切だと感じました。

(涌井翔太)

ば号歓迎：大学の新企画

今回、大学は 2 つの新企画を試みました。

第 1 に、乗船客への石巻合同庁舎見学の案内です。この岸壁から徒歩約 5 分のビルは今年建設されたばかりで、津波対策が特徴です。午前の部はお客様が 7 人集まりましたが、準備不足で不十分なお案内になってしまいました。午後の部では、市職員から大学関係者(大浪ゼミ、研究科長他)にビルをご案内いただきました。

第 2 に、キーホルダー販売です。ガレキ木材から製作した自由価格のこの商品が予想外に売れました。復興支援のためと高額をくださる方もありました。

新企画へのご協力に感謝申し上げます。

(阪口卓也)